

動物の診察室から

○ 11 ○

ベルちゃんは、十一歳 病院に来院する十三歳のラブラドル・レトリバーです。今年の六月から寝たきりになってしまいました。ベルちゃんは数年前からひじの関節の骨が肥大して、肋骨の骨も数力所大きくなってきました。それでも、食欲はあって散歩も大好きで元気で動き回っていましたが、五月の終わりに、ひじの痛みから始まり、



毎日車で病院へ通うベルちゃん

ベルちゃんのしっぽ

振ることもうできない

体の後方の麻痺が急激に進行してしまいました。現在は前足で上体を起こすこともできず、排尿もうまくできません。うれしいときにパタパタと振っていたしっぽは、もう振ることができません。体重は二十六キログラム、大型犬になります。犬の寿命は、大型犬の場合十三年くらいです。

きりになる場合もありま す。大きな犬でなくても、寝たきりになる子はい りますが、大型犬が寝たきりになると、その看護はとて大変です。小さなワンちゃんでも、寝たきりになってしまつと、

一週間ほどで辱着(床ずれ)ができてしまいま すので、一日数回体位を変えてあげる必要があります。

ベルちゃんは麻痺が進 行していく過程で、かな りの痛みがありましたの

で、モルヒネを内服して います。お姉さんとお母 さんが世話をしているの ですが、低反発マットを 敷いてもらい、一日何回 も体を触ってもらって いるため、立てなくなつて 三カ月になりますが、ど こにも辱着はできておら ず、体の被毛もとてもきれいです。

まず、先日 お母さんは、 腿鞘炎とき つくりの腰を起 こしてしまいました。

